

山桜の里 戸赤

文化財防火訓練

集落全員で防災を

婦人消防隊(8人)水消火器で
初期消火



発煙筒点火が訓練開始の合図 1/24

「小椋利幸さん宅」を対象に下郷町文化
財防火訓練行われ、通報・避難誘導・初期
消火・延焼防止・消火訓練に住民、婦人消
防隊、消防団が打ち合わせ内容に沿って行
動し方が一に備えました。チェーン着脱所
に消防団新開戸赤班、三ツ井班、刈林班、
広域消防署が待機、発煙筒点火で開始。婦
人消防隊は水消火器による初期消火、防火
水槽を水利として延焼防止消火訓練で約十
分放水し撤収となりました。

戸赤の消防団員は二名、婦人消防隊は八
名となり、集落全員の協力がないと防災体
制の維持はできない状態にあります。

2人しかいない戸赤消防団員、みんなでバックアップしてみんなで防災



「みちのく うまいもん
ーn大阪」に「道の駅しも
ごう」は中小企業基盤整備
機構の補助を受けて花豆パ
イを持ち込みPRしました。
町・商工会職員の応援も得
ながら二月十六日から二十一日まで一週
間、近鉄百貨店上本町店で町内の物産と共
に販売活動を行いました。花豆パイは一箱
一〇八〇円、三個入り五七〇円。売れ行き
は、はちみつやかご細工など地方色の強い
ものに比べ、菓子類は全般的にはかの出店
業者も苦戦を強いられました。

「道の駅しもごう」が花豆パイを 近鉄百貨店〈大阪〉でPR



イベント会場の主力として花豆パイを販売

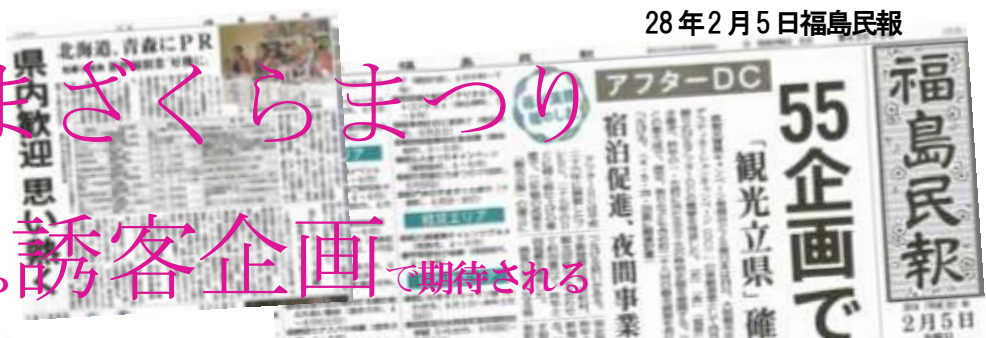
【木地の学習No.64】イトジリの仕上げ 手引きのロクロも動力モイトジリの部分をロクロの爪に固定させ、人間が移動して椀の内側と外側を挽く、だからイトジリの中は爪の跡が残り、手引きの時代はヒラチューナで爪跡を消すだけであった。しかし、動力ロクロの時代になるとイトジリも仕上げたので、新たな道具が必要になった。それが、ワリガタとハメガタである。…ワリガタはロクロの爪で固定されるので、木地椀にはまったく傷がつくことなく仕上げができる。ハメガタはワリガタにはめ込み、木地椀をしっかり固定させるための木製の輪である。これらの道具は、後に述べる木地椀以外の製品を作る時も応用されている。カンナボウ 動力ロクロの時代になると、アラガタもロクロ挽きすることは前述した。そのため、仕上げカンナのほかにアラビキ用のカンナボウが必要になる。アラガタ用も仕上げ用も五分丸のカンナであるが、前者のカンナの刃は強い抵抗に耐えられるよう厚くし、しかも片刃にするのが普通である。挽く方向が一定していると、両刃よりも刃が折れにくいからであった。また木鉢やお膳など、大物を挽く場合も片刃のカンナを使うことが多かった。このほかに、イトジリを挽くカンナがある。狭い所を挽くため刃の巾を細く作り、丸の棒ではなく、角棒を用いた。イトジリを挽くときは、ウシというカンナを支える台を使ったので、角の棒でないと安定しなかったからである。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (続く)

やまざくらまつり

全県から誘客企画で期待される

うおと
いっぴく

【11・24温泉保養の
とき】渡部利男さん
撮影



55企画で誘客
「観光立県」確立へ集大成
4月から

県関係の観光行事とJR
が行う大型誘客企画に戸赤
の山桜祭りが取りあげられ
四月二十九、三十日にもち
つきなどで
おもてなし
をすること
が紹介され
ています。
花・食・温
泉が企画の
テーマで全
県の活性化
をめざすも
のです。

下郷町
新
49 戸赤のやまざくら祭り
▶4月29・30日 明治時代から
守り続けてきた山桜と、そば
などの特産品が楽しめる。
※問い合わせ＝戸赤むらづくり
実行委員会事務局 ☎0241
(67)2020



右・渡部政江さん
左・星光美さん

れきの
ひとコマ



駐車場となっている元校庭の出入口
は以前より広がった



新しい石積み上部にはガードレール
準備中

川が変わって道路が良くなる

(ストーリー性のある村づくりのために) [No.32] 立体土製品 (りったいどせいひん) 萩原遺跡から出土している。昭和四十三年に
県道拡幅工事の際、吉田光之が採取したもので、同種のもが数個出土したといわれている。三角罫 (ち
ゅう) 土製品ともいわれ、三角形の部分に孔が貫通しており、ここに紐などを通して使用したと思われる
が、その用途は明らかでない。石製装身具 (せきせいそうしんぐ) 中国の珧 (けつ) に似た石製品の珧状耳飾 (け
つじょうみみかざり) は田島の宮ノ下遺跡や上ノ台遺跡から出土しており、動物の牙を模したと思われる勾玉
状石製品が上ノ台遺跡から出土している。また家ノ下遺跡の発掘調査では石製装身具が出土しており、
安張遺跡では小玉が出土している。またペンダント状の石製品は田島の寺前遺跡・岩下遺跡・宮ノ下
遺跡などから出土している。小型の精巧な磨製石斧もこの範疇 (はんちゆう) に入るものと思われ、伊南堂
平遺跡などから出土している。伊南の馬捨場遺跡からは緑色の美しい飾玉が二点採集されている。土
偶 (どぐう) 人の形をかたどった土製品で、下郷町芦ノ原遺跡や安張・下平・原の各遺跡で出土しており、
何れも後期中葉から晩期の所産と考えられる。南会津全体では田島・長野向遺跡、只見町窪田遺
跡などで出土している。伊南の馬捨場遺跡の土偶は上半分を欠き全体を知ることにはできないが、縄文
晩期頃の所産と思われる。「下郷町史―第7巻通史編 (発行・下郷町)」より出典 (続く)